

ことぶき共同診療所だより

第 23 号

2007年6月15日発行

横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 1・2F

電話とファックス 045-651-2305

E-Mail info@kyoudouclinic.com

http://kyoudouclinic.com

発行：医療法人ことぶき共同診療所

目次

| | |
|--|-------------------|
| ことぶき共同診療所は 12 年目になりました | 鈴木 伸 |
| 篠笛の演奏会 | 橋本 等 |
| 当所通院中の患者さんの疾病分類について | 田中 俊夫 |
| “診療室から”(19)―“服薬について”― | 田中 俊夫 |
| 寿町・あれこれ 寿界限の銭湯 | 原 明広 |
| 寿町地域ニュース・あらかると(2006年11月~2007年5月) | 寿町関係資料室 |
| 職員自己紹介 | 山本 重則・高田 あずさ・峯崎 恵 |
| 診療所日誌 | 矢島 雅子 |
| 共同診療所・鍼灸院ガイド | |



ことぶき共同診療所は 12年目になりました

【12年目をむかえて】

診療所は皆様のおかげで12年目を迎えました。この間、患者さんの増加に対応し、昨年10月に1階に診療所を移転、リニューアルしました。待合室が広がったことでゆったりした気分でお待ちいただけるようになったのではと思います。

この間、昨年10月からは内科を専門とする天田先生が常勤となり、また、今年4月から整形外科を専門とする大脇先生が毎週木曜日に診療していただけることとなり診療体制が強化しました。今後も利用しやすい診療所にするためにできる限り努力をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

【訪問見守りサービス開始】

当院に多いDOTsの方、特にアルコール依存症の方を中心に訪問見守りサービスを開始しています。数日当院に来られていない患者さんを中心に、訪問して安否を確認しています。連続飲酒の方を再び治療に継げたり、入院に継げたりするケースがでており、効果を実感しています。

【レントゲンが入りました】

いままで他院に依頼していたものが当院でも撮影できるようになりました。肺炎、結核の診断をはじめ、骨折などの診断もきっちりつけられるようになり、迅速な対応が可能になりました。今後も利用していただければと思います。

【今後の抱負】

寿町に関しては、高齢化が他地域にもまして進行しており、また、単身者がほとんどである状況を考えると、患者さんに関わっている諸機関との連携が必要です。また、高齢者医療の常ですが、入院対応が必要なことも多く、慣れない環境からか自己退院も多いため、周囲の医療機関にご理解を頂き、患者さんが入院加療を続けられるような支援も必要なようです。他にも、認知症に対応する体制づくり、ミーティングに乗ることが困難なアルコール依存症の方の支援体制などなど課題は山積みですが、地域の皆様と知恵を出し合いながら一步一步進んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。（鈴木 伸）

しのぶえ
篠笛の演奏会

早咲きの辛夷こぶしの花が咲き始めた3月上旬の吉浜町公園で、篠笛の演奏を楽しみました。演奏の前までは薄曇の天気でしたが、篠笛の音色が響きわたるとすぐに天気も良くなり、とてもどかで楽しいひと時でした。篠笛の音色に、公園で休んでいた人や通りすがりの人なども集まり、心に響く演奏に聞き入っていました。公園では野鳥も篠笛の音色に反応して、鳴き声を返したりしていました。ただ、全ての笛の音色というわけではなく一つの笛だけに反応していて、不思議な反応でした。

野外での篠笛コンサート。とてもすてきでした。

第2部は午後3時から診療所の待合室で始まりました。唱歌や民謡、美空ひばりの曲に皆さんから手拍子や拍手が起きました。“ふるさと”の演奏では待合室で合唱が起きていました。奏者の松尾けい慧さんの穏やかで楽しい話術も、その場の雰囲気^{けい}を和らげてくれました。デイケアのメンバ



ーさんや診療所の患者さん、そしてスタッフも皆と一緒に楽しめたひと時でした。

この篠笛演奏会がデイケアのプログラムに加わりました。これからは1～2ヶ月に一度の割合で行える予定です。松尾さんのご好意で都合がつけば福祉作業所でも演奏をしていただける予定です。

この文章を読んで、もし興味がある方がいらっしゃれば遠慮なく演奏を聞きに来てください。ちなみに松尾さんは素敵なCDも出しているようです。6月の演奏会は28日(木)に行う予定です。

穏やかで懐かしいひと時と一緒に過ごしませんか。

(橋本 等)

(デイケアの他のイベントは、診療所ホームページをご覧ください)

当所通院中の患者さんの疾病分類について

2006年12月31日付で、当所通院中の患者さんをカルテから疾病別に分類して、過去4回のものと比較した所、別表のようになりました。従来の数字も全てそうですが、これらの数は重複を許して集計しているので、患者実数848人の所、疾病数合計は精神科関係のみで1,143となり、その他に内科疾患計904ですから、1,000以上の重複疾患があることとなります。例えば、アルコール依存症で覚醒剤の使用歴があり、C型肝炎に罹患しているとなれば、3回カウントされるわけです。ですから、どのような疾患が当所では多いのかという傾向の問題として、理解して頂ければよいと思います。

明らかに多いと思われる疾病は、従来からそうですがアルコール依存症と薬物精

神病(ほとんど覚醒剤使用によるもの)と、内科では肝臓疾患で、中でもC型慢性肝炎です。これも又覚醒剤がらみです。最近糖尿病も増えているなあ、という感じがあり、これは当所に内科の専門医である天田先生がおられるようになった安心感と関係があるのかもしれませんが。又、従来数えてこなかった脳梗塞後遺症の患者さんが、数えてみるとやはり多いなあという感じでした。私自身脳梗塞後遺症で、糖尿病で、高血圧で、腰痛症(変形性脊椎症)で、人によってはアル中だと悪口を言う人もいますので、うちの代表的な患者さんのパターンだなあ、と感慨にふけったりしています。しかし、問題の半分は高齢化なのです。

(田中 俊夫)

疾病分類の推移

| 精神科疾患 | 2000年 7月 | 2002年 7月 | 2005年 3月 | 2006年 12月 | 構成比 |
|---------------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------|
| アルコール(依存症)精神病 | 80 | 106 | 237 | 263 | 31.0% |
| 薬物性精神病 | 30 | 38 | 84 | 105 | 12.4% |
| ギャンブル依存症 | 0 | 0 | 0 | 11 | 1.3% |
| 統合失調症 | 38 | 40 | 98 | 137 | 16.2% |
| 神経症 | 42 | 43 | 55 | 85 | 10.0% |
| てんかん | 0 | 20 | 17 | 39 | 4.6% |
| 躁うつ病 | 20 | 45 | 80 | 116 | 13.7% |
| 認知症 | 6 | 0 | 29 | 52 | 6.1% |
| 精神遅滞 | | 0 | 11 | 39 | 4.6% |
| 心因症 | 0 | 0 | 0 | 8 | 0.9% |
| 器質性精神病 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0.7% |
| 人格障害 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0.0% |
| その他 | 10 | 15 | 9 | 2 | 0.2% |
| 不眠症 | | 65 | 69 | 73 | 8.6% |
| 計 | | | | 848 | 110.4% |

| 内科疾患 | 2005年 3月 | 2006年 12月 | 構成比 |
|---------|-------------|--------------|-------|
| 高血圧 | 147 | 177 | 20.9% |
| 糖尿病 | 50 | 89 | 10.5% |
| 肝機能障害 | 72 | 185 | 21.8% |
| うち C型肝炎 | - | 108 | 12.7% |
| 肝硬変 | - | 31 | 3.7% |
| 白癬 | 68 | 74 | 8.7% |
| 前立腺肥大 | 42 | 65 | 7.7% |
| 高脂血症 | - | 73 | 8.6% |
| 脳梗塞後遺症 | - | 53 | 6.3% |
| 心疾患 | - | 49 | 5.8% |
| | | 848 | 90.2% |

注：2006年12月の計848人は当月の実人数で、構成比は実人数に対する各疾患の割合である。

“診療室から” (19)

“服薬について”

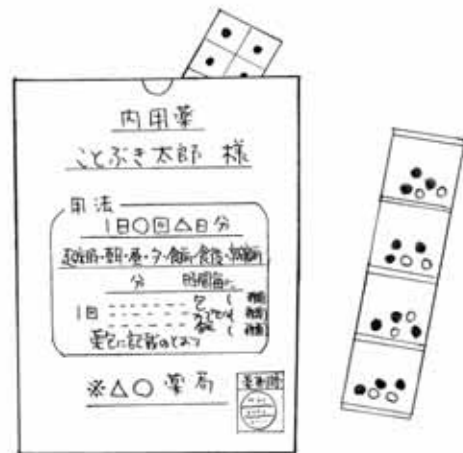


イラスト Ikuko arai

薬については、昔から笑える話、笑えない話等たくさんあります。伝説的な笑える話としては、服用時を食間と書いたら、御飯を食べながら薬を飲んでいたという話があります。

今はもう、そういう人はいなくなりましたが、風邪をひいたから注射をうってくれという人が、昔は結構いました。“うんと強いやつを、ドーンと一発うってくれ”なんて言って、太い腕をニュッと突き出す人がいたのです。患者としての私の記憶としても、子供の頃風邪をひいて、開業医の先生の所へ行くと、“では、お注射を”とよく言われたような気がします。一体何を注射していたんでしょうね。

大きく分けると、薬を過信(依存とも言える)している人と、軽視(又は恐がっている)している人といいますが、信頼の仕方が間違っていると思える人もいます。“もう3ヶ月も血圧を下げる薬を飲んだのだから、もう高血圧は治っていると思った。”などという人がいたり、多分一生飲むことになるだろうと言うと、気落ちして暗くなってしまう人もいます。かと思うと、勝手に普通の日は、めったに飲まないで、診察日の朝だけは必ず飲んでくるらしいという人もいます。薬を飲んでいれば大丈夫、という感じの人もいて、この間、血液検査の結果、“中性脂肪が大分高いですね”と言ったら、“でも薬を飲んでいるから大丈夫です”と言われてびっくりしました。薬を飲んでも高いから問題なのに。

今は、寿の多数派が一日二食であることを意識して、今迄一般的だった食後三回服用という指示には、気をつけるようにしています。中には、薬

を飲む為に、頑張って三食食べているという人までいて、その人が糖尿病や高脂血症であったりします。一番困るのは、今日は朝食を食べなかったの、朝食後の薬を飲まなかったと言う人がいることです。最近、降圧薬を中心として、徐放剤と言って、朝食後一回飲めば、一日中効いているという薬が増えていて、朝食後に服薬をしないということは、その日はその薬は全く飲まないということになってしまうのです。ですから、そのような薬については、食事に関係なく、起きたら飲んで下さい、と言っています。

薬についての記憶、知識としては、青い色の眠剤がハルシオン、赤い色のそれがベゲタミン A と知っている人が多い他は、マイスリーを黄色い薬、ベンザリンを米俵の形の薬として憶えている人が少数いるくらいで、印字やmg数など誰も憶えていません。又、赤い薬というのがメチコバルであったり、緑色の薬がイサロンであったり、青い薬がガスターであったりします。つまり錠剤そのものは、大部分白なので、シートの色で記憶しているわけです。従って、バラバラにしてしまうと分かりません。

自己判断による過剰服用は、睡眠薬の場合に多く、2パック以上飲んでしまって、次の日ひどい下痢に苦しむ人がいます。眠前薬として、下剤が合包されている場合があり、眠剤と一緒に、下剤も倍量以上飲んでしまうため、事実をなかなか白状しない人もいて困ります。

薬に関する気になることは、まだまだいっぱいあります。本当は大事なことなんですよ。

(田中 俊夫)



イラスト Ikuko arai

3畳のドヤから外に出て、うーんと身も心もゆったり伸ばせるのはやはり銭湯でしょう。番台のおばちゃん(兄ちゃん、おっちゃん、姉ちゃん、婆ちゃんのこと)のご機嫌をうかがい、広い湯船で高い天井見上げて鼻唄うたえばもう極楽です。日中行くと高窓から日が射しこんできてこれがまたいい。冬至のゆず湯、端午の節句の菖蒲湯も楽しみです。お代430円ですが、うるものを考えると高くないと思えます。券を買って10枚で4000円だから少し安い。

何年か前に診療所で銭湯聞き取りをしていましたが、小山湯、翁湯、山喜湯、恵比寿湯が患者さんの行く4大銭湯でした。

小山湯は湯道具をかたかたさせて中村川の橋を越えるとすぐです。わたしも常勤だったとき2年ほど通ったことがあります。寿の人たちでいつ行っても混んでいました。初めて入った時、写真でしか知らない6~70年代の炭坑全盛時代にさかのぼったようななつかしい気がしました。港にバナナが入ったよなんて会話が聞こえてくる。診療所の患者さんともよくお会いしましたよ。

いつもどことなく哀愁な空気をまとっている常連のAさん。つかる背中もしみじみとしてらっしゃった。「ワイン風呂入ってだいじょうぶかねえ。抗酒剤飲んでんだけど」と聞いてから、どぶんと飛び込んだBさん。りっぱな彫りものしょってど迫力の(今は気は優しくて力持ち)Cさんとは、鉢合わせしたとき声かけられ

なくて半年気まずかった。痛いなあとうんうんうなっていたDさんは肝臓のがんでもうお亡くなりになっています。入口のベンチに座って風に当

たっていた若いEさん、最近見ないけど元気でやってるか。

いつも悠々と入ってらっしゃるのは白ヒゲのS荘の帳場さんです。同じドヤや断酒のミーティング仲間で連れ立っていらっしゃる人たちもいたようです。隣りでぐたーとずっと横になっている人がいたこともあります。頭洗って湯が飛び散っても微動だにしない。他人のシャンプーをひょいと使おうとして、今日ここ初めてなんだというじいさんもいたり。わざとまちがって女湯をのぞく人もいたり。今はサウナもできたそうですが、どうも気が休まらないことに気づいて丘の反対

寿町・あれこれ

③ 寿界限の銭湯

側の銭湯に行っています。

スーパーあおばの向こうの少し遠い恵比寿温泉となるとぐっとツウ好きになるでしょう。診療所のデイでも何度も行ったことがあります。箱根の温泉銭湯と並んで年末の新聞にも取り上げられたくらいで、年中無休、サウナ利用者はタオル貸し出しつき。湯船もデラックスな雰囲気です。

ちょっと歩く中村町の山喜湯は3年ほど前につぶれてしまいました。昭和初期の趣というか実にひなびた雰囲気で、脱衣所には演歌が流れていてなかなか良かったのですが。ちなみに近くには、ポスターの姉ちゃんが不敵に笑ってる立ち飲み屋や寿で屋台から始めたという定食屋、店員のあいさつが実に気分のいいコンビニもあります。

最近、センター2Fの翁湯に初めて

入ってみました。垢が浮いていたと聞いたことがあったのですがとんでもない。入口を入ると、ドヤの向こうにのぼる朝日の感動的な写真に出迎えられてすがすがしい。脱衣所も中も広くて、東海道五十三次神奈川の大きなペンキ絵がとても粋です。きれいな湯。それほど混んでなくて、広い湯船に静かでおだやかな雰囲気です。ここが寿のへそとい

う趣で、おおいにリラックスできました。翁湯ではこの5月下旬より、木楽な家での入浴介助がいっぱいになったのをうけて、被介助者向けに入浴介助が行われるそうです。

よくもわるくもどどーんと裸のつきあいです。近くにお越し

の際は是非汗を流してみたいかがでしようか。寿で生きる人たちの哀歓がきこえてくるとおもいます。

(原 明広)



イラスト Ikuko arai

寿町地域ニュース・あらかると (2006年11月～2007年5月)

【医療・福祉】中区肢体障害者協会が寿町で炊き出し('06.12) / 要支援・要介護1の認定者は一部の人を除き横浜市高齢者食事サービスを利用できなくなった('07.4) / ゆめかいかん本館内に訪問介護事業所「ケアライン・ベガサス」が開設('07.5) / 地元の要望によりセンター3階翁湯で要介護認定者向けの入浴事業が始まる('07.5) 【野宿】野宿者数・生活実態等についての全国調査実施、横浜市 661人('07.1) 【簡易宿泊所】松影会館と三都荘新館がオープン【娯楽】場外舟券売場の建設が進む('07.5)

(寿町関係資料室)

職員自己紹介

山チャンです。

山本 重則

稲子の農作業に係っていたのが縁で、今回、吉浜町公園の園芸部門を手伝うようになりました。

昔、寿町に住み、港の船内、ショーリングの日雇い仕事や、建築、土木等の岡仕事、飯場暮らしもしていたので、久しぶりに戻ってきた感じです。

日頃の不摂生から、8年前に癌で胃を全摘し、昨年再発して腸の3分の2を除去し、抗ガン剤を飲んでいます。今年還暦を迎えて就職もままならず、どう生きてゆけば良いのかと悩んでいます。

今迄と全く異なった環境で、草花の名も知らないのですが、池のメダカ、ドジョウを見て、野鳥のさえずりを聞き、播いた種が芽を出し、日々成長し花を咲かせてゆくを見ると、自然と共にゆっくりと過ごす感じで、新しい世界に入ったようで、生きる目標ができて良かったなあと感じています。

好きだったもの、サッカー、ズージャ、ヤマ、温泉。

373 - 4649!

戻って参りました！！

高田 あずさ

診療所だよりの職員自己紹介欄にこうやって原稿をのせていただくのは実は2回目になります。なぜなら・・・大学時代1年ほどアルバイトをさせていただき、卒業して横浜市内の精神科の病院に3年間勤め、また診療所に戻ってきたからです！！

なぜ戻ってきたかって?? それはもちろん診療所を含め、寿の町のことを忘れられなかったからです。寿の町に魅了された理由はたくさんありますが、最近になってまた理由が増えました。最初はとにかく、町と人の面白さ、奥深さに惹かれたわけですが、最近はこの町はこれからどうなっていくのだろうという関心を持つようになりました。世の中全体が少子高齢化で慌てていますが、寿は超少子高齢化です。福祉サービスや医療が十分とはいえないとしても、ある程度は充実してきているようです。労働者の町から福祉の町へと変貌を遂げた後、今後どんな町になっていくのでしょうか? 外国人の方がきれいなドヤから出てくるところを見かけることも多く、新聞には、若い人がドヤを場所柄便利で安く泊まれる場所として利用していると載っていました。その一方で相変わらずおじさん同士がけんかしている場面もよくあるようです。

いろんな可能性があると思います。そ

んな変わり行く町に少しでも関われば面白いなあと思うのです。寿に関わっている人たちは想像力豊かでバイタリティのある方が多いので、そういった方の知恵をお借りしながら自分なりの活動を見出せたら、と考えています。もちろん目の前にいる患者さんと一緒に。どうぞよろしくお願いいたします！！

はじめまして

峯崎 恵

はじめまして。峯崎恵と申します。今年の2月に1ヶ月間、「ことぶき共同診療所」で精神保健福祉士の実習をさせていただいておりましたが、このたび5月から週に2回、アルバイトで伺うことになりました。

昨年秋、まだ実習など他人事だったところに、所属している大学から大至急実習先を探すように連絡があったため、やっと重い腰をあげました。どこにしようか、と病院や施設のリストを繰っていくうちに、「ことぶき共同診療所」の文字に目が留まりました。寿町についての知識はほとんどなく、もちろん紹介もない状態でしたが、なぜか「ここだ！」という直感が働き、迷わず実習先としてお願いすることにいたしました。実習前の訪

問時から、飛び切り明るく温かい診療所みなさんに迎えていただき、人見知りの激しい私が自分でも驚くほど安心して馴染んでいきました。

1ヶ月間の実習期間は、毎日が貴重なものでした。日を重ねるごとに寿町に魅せられていきましたが、それは寿の人が、孤独だからこそ人との関わりを求めている、そして本音で生きていると感じたからです。当たり前のことですが、忘れがちで、でも大切なことだと思いません。

また実習中は物事を表面だけに囚われずに考えていくという毎日の実習記録を書くための必要不可欠で付け焼刃的な作業を心がけましたが、この視点は実習に限らず、仕事をするうえで、暮らしていくうえで本当は欠かせないものであると、今にして実感しています。

実習を終えた頃、ちょうど失業したのですが、そんな時藤枝さんがお声をかけてくださいました。さらに「ことぶき介護」でも週に1日ヘルパーとして押しかけることになり、再び寿町に関わることになりました。しみじみと「人生は面白いなあと」思っています。これからも、実習時の視点を忘れることなく、寿町のみなさんと私の人生を重ねていければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

診療所日誌

2006年11月~2007年5月

11月 1階に移ってからの改修工事まだまだ続く…

11月4日 1階に移ってからの初めての整形外科。三橋先生、新井先生の2人体制でのAKA開始となる。
11月21日 だより22号発送
11月26日~27日 職員旅行(大丸温泉)

12月 流行に敏感な(?)診療所は、ノロウイルスにやられました

12月7日 デイケア、稲子の新米と里芋で芋煮会開催
12月8日 朝の見回り部隊、部屋の中からうめき声が聞こえ、急遽、隣の窓から侵入。入院に繋げる。
12月10日 診療所大掃除 資料室もはり部屋へ引越し
12月21日 Dr.鈴木、寿福祉プラザの依頼で、大通り公園へ往診。夕~忘年会外部から36名、計59名で賑やかに行いました
12月28日 年末へ向け、入院者多数
12月29日 年内最後の診療。年末年始に医療班テントでDOTSになった人はガックリしている
12月31日 デイケア、紅白を見て、年越しソバを食べる

1月 緊急の往診依頼増える

1月3日 寿医療班へ一日診療所を開放する
1月10日 大通り公園へ、Dr.越智再度往診
1月17日 氏名、年齢不詳の方受診、ソフト救急で応急入院となる
1月18日 カルテナンバー4番さん(実質、初めての患者さん)、10年ぶりの受診
1月19日 稲子のれんげ荘の裏の土地の契約
1月20日 寿医療班と合同新年会、18名参加。里野さんが職場の同僚を連れてきてくれました。
1月23日 患者数214名、最高記録です
1月30日 CRPの機械導入

2月 診療所開設以来、初めてインフルエンザが大流行

2月1日 Mさん、1ヶ月の精神保健福祉士資格取得のための実習に入る
2月2日 南雲ガラスさんから、寿の歴史についての聞き取りをさせて頂く
2月3日 デイケア、豆まき。待合室の患者さんも巻き込み大豆まき大会となる
2月6日 吉浜町公園に中土木事務所の人と合同で落ち葉BOXをつくる。谷川さん、資料室資料の整理をしてくれることになる。民医連神奈川支部生活保護部会の方、寿町見学ツアーで診療所に訪れる
2月13日 待合室にコーヒーコーナーがつくられる
2月14日 デイケアGさん、実兄と共に久しぶりに沖縄に一時帰宅

2月15日 田中院長、待合室里山計画実行中。どじょう、タニシが水槽に入る
2月16日 酸素導入
2月20日 診療所停電! 闇の中での診察をしていましたが、復旧するまで、2階で臨時診察

3月 寿町外から、高齢認知症の方の対応について相談増える

3月3日 デイケア、仮装ひな祭り大会。オシロイを塗ったお雛様とお内裏様、三人官女はとてもきれいでしたよ
3月7日 Dr.鈴木(美)、毎週水曜日午前勤務となる
3月8日 篠笛の会。待合室の患者さんも篠笛に合わせて、皆で合唱しました
3月14日~15日 デイケア、一泊温泉旅行(箱根)
3月15日 富山大学の医学部の学生さん2名、見学に見える。
3月16日 中土木事務所より、花の苗を頂き、公園へ植える
3月22日 学習会「寿の歴史について」(田中俊夫)
3月27日 山本さん、公園担当として週二回勤務

4月 土曜日の定期往診、木曜日の整形外科開始等、診療体制も変わりました

4月3日 デイケア、弘明寺まで花見。雨降りですでしたが、大岡川の桜は満開
4月7日 Dr.天田、定期往診開始
4月15日 診療所の床磨き。川崎さん、デイケアのメンバーさん2人と共に行う
4月20日 寿福祉作業所の利用者さん、3名の合同葬儀
4月21日 高田あずささん、職員として勤務開始
4月26日 注射でアナフラキシーを起こし、初めて救急セットを使う

5月 ゴールデンウィークの余波は続く続く…

5月1日 実習に来ていた峯崎さん、アルバイトとして勤務開始
5月8日 5連休明けの診療所は大混乱。スリッパ者続出
5月18日 Dr.越智、寿福祉プラザからの依頼で、寿飲食店街まで往診
5月19日~20日 デイケア、稲子へ田植え。総勢25名、大移動です。
5月26日 デイケアMさん、自室で亡くなっているのが発見される。デイケアIさん入院。色紙を持ってメンバーさんとお見舞い。

(矢島 雅子)

医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

診療科目 **精神科 神経科 内科 心療内科**
整形外科 鍼灸

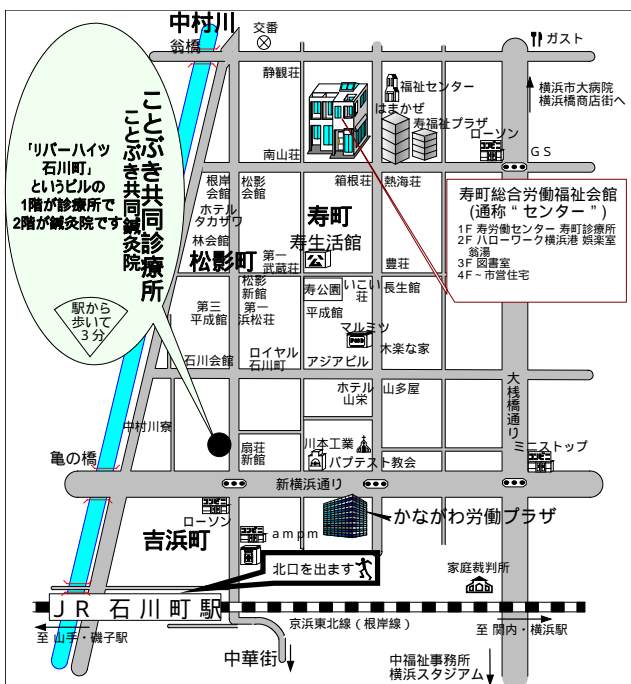
診療所

| | 9時30分 | 12時 | 14時 | 17時30分 |
|---|-----------|-------|-----------------|-----------------|
| 月 | 休 診 | | | |
| 火 | 田中・鈴木伸・天田 | 昼 休 み | 田中・鈴木伸・天田 | 精神科・神経科・内科 |
| 水 | 越智・天田・鈴木美 | | 越智・天田 | 精神科・心療内科・内科 |
| 木 | 田中・鈴木伸・大脇 | | 田中・鈴木伸・大脇 | 精神科・神経科・内科・整形外科 |
| 金 | 鈴木伸・天田 | | 越智・天田 | 精神科・神経科・心療内科・内科 |
| 土 | 鈴木伸・三橋 | | 整形外科・精神科・神経科・内科 | |

鍼灸院

(鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください)

| | 9時45分 | 13時 | 14時 | 18時 |
|---|-------|-------|-------|-----|
| 火 | 新 井 | 昼 休 み | 新 井 | |
| 水 | 新井・富永 | | 新井・富永 | |
| 木 | 新 井 | | 新 井 | |
| 金 | 新 井 | | 新 井 | |



保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護 障害者自立支援(その他、医療福祉相談も受け付けています)

心理判定(隔月1回)

寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

共同診療所・鍼灸院の所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17
リバーハイツ石川町 1・2F

でんわとファックス

(045) 651-2305

e-mail info@kyoudouclinic.com

ホームページ

http://kyoudouclinic.com

2007年6月15日現在